

# 芦安小学校学校関係者評価書（後期）

平成30年1月24日（水）  
学校関係者評価委員会作成

## 第2回 芦安地区学校関係者評価委員会

実施日：平成30年1月24日（水） 午後7時～8時00分

会場：南アルプス市立芦安小学校多目的ホール

学校関係者評価委員

委員長 森本 薫（芦安小中学校PTA会長、学校評議員）

副委員長 佐々木 健（芦安小中学校PTA副会長、学校評議員）

委員 清水 実（芦安子を守る会会長、学校評議員）

委員 伊東 隆雅（芦安地区保護司、学校評議員）

委員 清水 准一（NPO法人芦安ファンクラブ事務局長、学校評議員）

委員 三井 孝司（芦安窓口サービスセンター長、学校評議員）

委員 深澤 米男（南アルプス市議会議員、学校評議員）

委員 森本 章雄（芦安地区学校応援団代表、学校評議員）

学校職員（小学校）校長 名取 昭彦、教頭 樋川 和之、教務主任 興石 みさを  
（中学校）校長 石原 敬彦、教頭 丹澤 博、教務主任 早川 武浩

### 1. 学校側からの提案された内容

- ① グランドデザイン、学校経営方針について
- ② 学校評価の方法について
- ③ 評価の全体的な傾向について
- ④ 後期教職員自己評価の結果について
- ⑤ 後期児童アンケートの結果について
- ⑥ 保護者アンケートの結果について
- ⑦ 今後の学校経営・運営について
- ⑧ 芦安小中一貫教育の取組について

### 2. 協議された主な内容

- ① 後期自己評価の結果について
- ② 児童アンケートの結果について
- ③ 保護者アンケートの結果について
- ④ 各項目の評価・達成状況・改善策について
- ⑤ 今後の芦安地区の教育のあり方について

### 3. 協議されたこと、質疑・意見

- ・ アンケートを見る限り、とてもよい状況が続いている。良い面はさらに伸びるよう、改善すべきところは改善していくよう、より一層、きめ細かく指導・支援をしていただきたい。
- ・ 児童アンケートにおいて、「困ったときに相談できる友達があまりいない、いない」と回答している数名いるが、この児童への対応もお願いしたい。少人数の利点を生かし、学年の枠をこえて仲良く遊

ぶ機会を増やしている。教職員も一緒になって放課後に校庭で遊ぶことや、様々な教育活動等の取組を子供と一緒にすることで、今以上に子ども同士の「絆づくり」や子供と教職員との信頼関係ができてきている。これからも、少人数教育のメリットを生かし、校内研のテーマにもあるよう『コミュニケーション能力』を高められるよう取り組んでいきたい。

- ・芦安の子どもたちの学力も、少人数教育ということもあり高いレベルを保っている。小中連携、小中一貫、英会話科と特色のある教育内容や少人数ゆえの利点である、1クラスの人数が少なく、子どもたちのつまづきを気づきやすく、対応が可能な部分をこれからも先生方に続けていってほしい。
- ・芦安地区だけでなく、他地区の子供たちが増えていることが、様々な出会いの場となっている。人間関係を学んでいく上では、とても大切なことであるが心配もある。しかし、「児童アンケート」の結果や「教職員の自己評価アンケート」等を見ると安心である。若い先生方も多く、児童に近いところで頑張っていることが伺えるが、経験豊富な先生方からの指導をお願いしたい。
- ・地域と学校との近さが、芦安小中学校の魅力の一つである。ただ、地域の方たちは子供や孫が学校を卒業していくと、離れていく傾向もある。また、地域と地区外の保護者、保護者どうしの連携も、これからも課題である。やはり、いろいろな人が関わる、関われるような学校、学校が地域のプラットフォームになれるような学校づくりを目指してほしい。また、保護者どうしが同じ地域に住んでいるわけではないので、交流する機会も少なくなり、コミュニケーションをとることも難しくなっている。保護者どうしが、教育を語る機会をつくっていききたい。地域と保護者がつながるためにも、すぐできそうなこと（例：どんど焼き等の地域のお祭りに参加する）から始めるとよいのではないかと考えている。

#### 4. 分析・評価

地域と学校の近さや、少人数だからこそできる「きめ細かな指導」を生かした学校運営をこれからも「芦安郷育」の柱としながら、前期同様、「生き生きと自己表現ができる児童の育成」を推進していきたい。また、これからも、児童一人ひとりとコミュニケーションを図り、正しい児童理解や共感的理解に努めることで、児童との良好な関係を築き、豊かな学校生活の推進も図りたいと考える。

一方で、「芦安郷育プログラム」については、学校行事の精選を図りながら、学習プログラムを組み、柔軟に教育課程に位置づけていきたいと考える。平成31年度からの小中一貫校としてのスタートを目指しながら、小中9年間あて芦安のよさを認識し、芦安を語り、他に発信できるグローバルな児童生徒を育成するため、これまでの実践（財産）を継続するとともに、英会話科中心に新たな展開を目指す積極的な提案・チャレンジを推進していきたいと考える。これからも地域の人々とふれ合ったりすることで豊かな感性や実践力を、より一層はぐくんでいきたい。

今回、芦安地区学校関係者評価委員会において、全体的には調和のとれた教育活動が進められていることが確認できた。一方で、課題として挙げられた点については、これからも力を入れて取り組んでいきたいと考える。